

都立新国際高校（仮称）開校に向けた専門家会議（第2回）

次 第

日時 令和5年9月7日（木）
午後2時から午後4時まで

1 開会

2 議事

特色ある教育活動の検討について

(1) 第1回会議のポイントについて

(2) 「高等学校におけるICTの活用－STEAM教育や生成AIに着目して－」

東京学芸大学大学院教育学研究科 教授 北澤 武

(3) 「新設高校に向けた国際交流事例の紹介と今後の課題解決」

オーストラリア キーンズランド州政府駐日事務所

上席商務官 田村 杏奴

(4) 「東京学芸大学附属国際中等教育学校の概要」

東京学芸大学附属国際中等教育学校長 荻野 勉

(5) 検討の視点と方向性について

3 その他

配 布 資 料

(資料1) 委員名簿、事務局名簿

(資料2) 第1回会議のポイントについて

(資料3) 特色ある教育活動等の検討について

(資料4) 検討の視点について (第1回会議資料再掲)

(資料5) 検討の方向性について

(資料6) 今後の予定について

【参考資料】

- 1 「新国際高校（仮称）設置に係る検討委員会報告書」（平成29年3月）
- 2 「都立新国際高校（仮称）基本計画検討委員会報告書」（平成31年3月）
- 3 第1回都立新国際高校（仮称）開校に向けた専門家会議 議事要旨

【資料1】都立新国際高校（仮称）開校に向けた専門家会議

< 委員名簿 >

	職名	氏名	備考
学識経験者	東京学芸大学附属国際中等教育学校長	荻野 勉	
	上智大学言語教育研究センター教授 センター長	藤田 保	
	明海大学教職課程センター・地域学校教育センター教授	米村 珠子	
港区教育委員会 関係者	港区教育委員会事務局学校教育部教育指導担当課長	篠崎 玲子	
学校関係者	東京都立国際高等学校長	齋藤 直子	
	東京都立立川国際中等教育学校・附属小学校長	市村 裕子	

事務局	教育庁高校改革推進担当部長	猪倉 雅生	
	教育庁教育改革推進担当部長	根本 浩太郎	
	都立学校教育部都立高校改革企画調整担当課長	岐下 英男	
	都立学校教育部都立高校改革推進担当課長	稲村 理在子	
	都立学校教育部教育改革推進担当課長	横田 雅博	
	都立学校教育部施設調整担当課長	見目 充幸	
	指導部高等学校教育指導課長	信岡 新吾	
	指導部高校教育改革担当課長	小林 靖	
	グローバル人材育成部国際教育企画課長	軽部 智之	
	人事部人事計画課長	奥富 洋一	
	都立学校教育部高等学校教育課課長代理（教育改革推進担当）	高橋 顕子	
	都立学校教育部高等学校教育課指導主事	松井 健彦	

【資料2】 第1回会議のポイントについて

- IB教育の良いところを日本の教育と結合させながら、新しい教育を作っていく。主体的・対話的な深い学びに導いていくことが可能。IB教育で大切にされている「**学問的誠実性 (Academic Integrity)**」を身に付けることが大切。
- 大学進学以外の進路を目指す生徒達が育ってもよく、**幅を与える機会**が高校時代に提供できると素晴らしい。
- 教科横断的・文理融合的な学び**に向けたカリキュラム、情報やAI、データサイエンスや自然科学などの学びの視点も必要。
- 在学中に国内外の大学の研究機関や大使館、インターナショナルスクール等、英語圏以外の国や地域も含めて、**海外との繋がり**をつくることが大事。
- オンラインとリアル双方の交流機会**を取り入れ、国内外の**豊かな体験活動**が大事。国際交流をイベントで終わらせず、学習とどう統合していくか。生徒が探究で学んだことをフィールドワークとして企画・実践させる独自の取組も大事。
- 港区の中学校と交流**する素地、連携を模索してほしい。
- 海外大進学には、学校を超えた情報・ノウハウを共有する仕組みの構築が効果的。外部専門人材の活用等により**国際交流や海外進学の拠点**とすることも検討。
- 新国際高校（仮称）と国際高校、両校とも発展するような形を考えたい。

【資料3】 特色ある教育活動の検討について

- 1 「高等学校におけるICTの活用ーSTEAM教育や生成AIに着目してー」
東京学芸大学大学院教育学研究科 教授 北澤 武
- 2 「新設高校に向けた国際交流事例の紹介と今後の課題解決」
オーストラリア キーンズランド州政府駐日事務所
上席商務官 田村 杏奴
- 3 「東京学芸大学附属国際中等教育学校の概要」
東京学芸大学附属国際中等教育学校長 荻野 勉

【資料4】 検討の視点について

① 入学

国際社会等での活躍を目指す意欲ある多様な生徒を受入れ

- ▶効果的な入学選抜（義務教育で学んだ総合的な力を評価しつつ、英語力や論理的思考力等をみる学力検査の実施、積極性・表現力等をみる面接・小論文の実施等）を検討
- ▶帰国生徒、在京外国人生徒の受入枠の検討 など

② 在学中

立地特性を生かし、生徒の力を伸ばす多様な教育内容を展開

- ▶言語活用能力や考える力の育成（英語をツールとして使う力やコミュニケーション力、論理的思考力や表現力等を伸ばす学び）について検討
- ▶探究的な学習を通し、社会的課題を分析・追究し解決する力を育成
- ▶情報システムや多様なデータを効果的に活用・分析する力の育成を検討
- ▶STEAM教育等の教科等横断的な学びの充実を検討
- ▶国内外の大学や研究機関、大使館等と連携した講座等交流事業の実施を検討
- ▶海外大学等とのオンライン講座などデジタルを最大限活用した教育活動を検討
- ▶教員の資質・能力の向上など指導体制の整備について検討 など

③ 卒業

国内外の多様な進路を生徒が主体的に選択できるよう支援体制を整備

- ▶海外大学で必要なスキルを学ぶ科目等の充実について検討
- ▶外部機関を活用した海外進学セミナーや出願準備等支援体制の整備を検討
- ▶進学に向けた奨学金制度の情報提供など、生徒への具体的な支援策を検討
- ▶海外ボランティア活動やインターンシップ等への参加により、生徒の興味・関心の幅を広げ、国内外でのキャリア形成に向け、意欲を高める手法を検討 など

【資料5】 検討の方向性について

	視点	検討の方向性
入学時の姿	高い英語力よりも論理的思考力や学ぶ意欲が重要	<ul style="list-style-type: none"> ○都内公立中学校生等を対象とし、一定の英語力を身に付けていることを前提とした教育課程を編成し、論理的思考力等を育成 ○海外経験のない生徒でも意欲や積極性等を評価し、入学後に力を伸ばす
学ぶ環境	多くの外国人等を受入れて多様な環境をつくること	<ul style="list-style-type: none"> ○在京外国人生徒の就学機会の確保のため、受入枠を設置するが、具体数については、入学者選抜における応募倍率等ニーズを踏まえ検討 ○大使館やインターナショナルスクール等も多い地域特性を活用するとともに、交換留学生の受け入れやオンライン交流等の充実など、多国籍の生徒や教職員等と日常的に交流できる環境を創出 ○コミュニケーションや多文化理解のための手段として、第二外国語を開設
	理数分野等幅広い素養が必要	<ul style="list-style-type: none"> ○STEAM教育など教科横断的な学びを充実 ○論理的思考力等を伸ばすため探究的な学習を充実
将来の姿	どのレベルの大学を目指すのか	<ul style="list-style-type: none"> ○国内大学のみならず、アジア等も含めた国内外の多様な大学が選択肢となるよう、進路指導体制を充実 (具体的な取組例) <ul style="list-style-type: none"> ・外部機関を活用した海外進学セミナーや出願準備等個別の指導・支援体制を整備 ・進学に向けた奨学金制度の情報提供など、生徒への具体的な支援策を検討
	卒業後の将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーション能力や協調性、新しい価値を創造する力など、世界で普遍的な生きる力を身に付けることが目標 ○豊かな国際感覚を身に付け、多様な人々と協働し、世界をけん引するグローバル人材となることを期待
国際高校との関係		○ グローバル人材の育成拠点 として、今後、専門家会議において、仮称の校名等を変えることも含めて、議論

【資料6】今後の予定について

	内 容	開催日	備考
第1回	新国際高校（仮称）の検討について ○特色ある教育活動について 都立国際高等学校、都立立川国際中等教育学校・附属小学校の取組【各校長】	7/26	
第2回	特色ある教育活動の検討について		
	○高等学校におけるICTの活用 東京学芸大学大学院教育学研究科 教授 北澤 武	9/7	
	○新設高校に向けた国際交流事例の紹介と今後の課題解決 オーストラリア キーンズランド州政府駐日事務所 上席商務官 田村 杏奴		
第3回	○東京学芸大学附属国際中等教育学校の概要【荻野座長】 ○海外大学進学への取組等について（調整中） 米国大使館広報・文化交流部英語教育コーディネーター ミーガン エイトケンヘッド ○世界で活躍する人材の育成について（調整中） Fin City. Tokyoアンバサダー イェスパー コール ○中高生の意見を議論のとりまとめの参考資料として報告	10/30 月曜 15:00 ～	対面とオンラインのハイブリットで実施
第4回	議論のとりまとめ	12月 中旬	